



# 合併後5年間のまちづくり

【教育部】

平成22年2月



# 主な取り組み



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○ 主な取り組み

### ● 学校施設の整備

- ◇ 基本調査・耐震化優先度調査事業を実施し、小・中学校校舎等の実態を調査するとともに、長期改修計画を策定した。（平成19年3月）
- ◇ 大規模改造（可愛小・大叟小・亀山小等），耐震補強（川内小），屋内運動場（高来小・永利小），プール（八幡小）等施設整備工事を実施した。

### ● 教育ネットワークの整備

- ◇ 情報化に対応した教育環境を整備するため、教育用、校務用パソコンを整備した。また、全小・中学校図書館に集中型図書館管理システムを導入した。

### ● 安全性を考慮した教育環境施設の管理

- ◇ 児童生徒等の緊急時の救命対策として、全幼稚園，小・中学校へAEDを設置した。（平成20年7月）



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○ 主な取り組み

### ● 社会の変化に対応した学校教育の推進

- ◇ 小中一貫教育推進事業、薩摩川内元気塾事業、英語力向上プラン事業、小学生綱引競技大会などの薩摩川内らしい特色ある教育活動等を推進し、薩摩川内市を我がふるさとと思う「ふるさと意識」の高揚や豊かな心と確かな学力の育成等を図ってきた。
- ◇ 小中一貫教育については、平成18年に内閣府から小中一貫教育特区の認可を受け、水引・里・祁答院の3中学校区を小中一貫教育のモデル校区に指定し、平成20年度までの3年間にわたって研究・実践を推進してきた。そして、平成21年度からはモデル校区の成果を踏まえ、全16中学校区で連携型の小中一貫教育を推進し、中1ギャップの解消や教職員の資質向上を図っていく。

### ● 通学区域の在り方等の検討

- ◇ 教育委員会は「市立学校通学区域・適正規模等審議会」に通学区域の在り方等に関する審議を依頼し、同審議会ではこれまでに「小・中学校の適正規模」や「特認校制度・留学制度」に関すること等について、学校訪問等の現地調査も行いながら審議を行ってきた。そして、第2期審議会は、それまでの審議の結果をまとめ、平成20年8月に「審議のまとめ」として教育委員会に報告をし、その後設置された第3期審議会でも継続して審議しているところである。
- ◇ 教育委員会としては、学校が小規模化していく中での「今後の学校教育の在り方」について保護者や地域住民に協議・検討していただくとともに、審議会の審議結果や保護者等の意向等も踏まえ、望ましい学校規模の考え方や適正規模化等に関する教育委員会としての基本方針を策定しようとしているところである。



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○ 主な取り組み

### ● 青少年健全育成事業

- ◇ 本市の心豊かでたくましい青少年の健全育成を図るため、自然体験や交流体験等を行う「青少年フレッシュ体験事業」を実施したほか、市内地域間の子どもたちによる交流活動を行う新市交流「春夏秋冬」事業、青少年の国際的視野を養う青少年海外派遣事業等を行った。

### ● 家庭教育の向上

- ◇ 家庭の教育力向上を図るため、各幼・小・中学校における家庭教育学級への学習活動の支援・専門講師の派遣等を行ったほか、家庭教育学級公開学習研修会、ブロック別講演会等を開催し、各種学習情報の交換や家庭の教育力を高めるための研修機会の充実に努めた。

### ● 薩摩川内市民歌の制定

- ◇ 市制施行5周年を記念し、併せて、市民の一体感の醸成を図るため、薩摩川内市民歌を制定（平成21年6月10日）した。



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○ 主な取り組み

### ●薩摩国分寺秋の夕べ、春の芸能祭

- ◇ 国分寺跡史跡公園を、歴史的・文化的雰囲気醸し出す芸術活動等の発表の場にご利用し、「薩摩国分寺秋の夕べ」と銘打ち、広く市民に郷土芸能や文化鑑賞の機会を提供した。平成20年度で11回目を数える。
- ◇ 平成18年度から、「春の芸能祭」と銘打ち、市内各地域に大切に保存・継承されている郷土芸能や文化芸術を市民に披露し、地域相互の文化振興や理解を図ることを目的に開催している。

### ●薩摩川内国際青少年音楽祭

- ◇ 世界の優れた音楽を鑑賞できる場を提供し、海外の音楽家等との交流を通して国際感覚を養うことを目的に平成18年度から実行委員会主催で開催している。

### ●史跡清色城跡保存関連整備事業及び入来麓伝統的建造物群保存地区保存修理事業

- ◇ 国指定史跡の清色城跡を保存するため、国庫補助事業を導入し土地の公有化を図っている。平成20年度までに87.2%を購入。
- ◇ 中世入来院氏の居城である清色城跡の麓に、武家集住地として形成された地域にある住宅等の修理修景に国庫補助事業を導入し、保存整備を行っている。平成20年度までに15件の修理事業を実施した。

### ●天辰寺前古墳

- ◇ 天辰地区土地区画整理事業工事中に竪穴式石室の古墳が発見され、専門家の指導を受けながら調査を実施。

### ●川内川激甚災害特別対策事業にかかる埋蔵文化財発掘調査の実施

- ◇ 国土交通省が実施する川内川激特緊急事業に伴い、川内川流域に存在する埋蔵文化財3ヶ所の発掘調査を平成20年度から実施中。



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ◎ 主な取り組み

### ● スポーツの振興

- ◇ 市体育協会と連携を図りながら、「市民運動会」及び「市民交流スポーツ大会」を開催し、市民の一体感の醸成に努めた。
- ◇ スポーツ合宿等誘致事業に取り組み、「見るスポーツ」「質の高いスポーツ」を推進し、競技者及び指導者の強化・育成を図った。
- ◇ 市体育協会等関係団体と連携を図りながら、スポーツ振興の諸施策を展開し、競技スポーツ人口の拡大及び競技力向上に努めた。

### ● 生涯スポーツの推進

- ◇ ライフステージに応じたスポーツ教室を実施し、運動習慣の定着化を図った。
- ◇ 各地区での運動機会の提供を図るため高齢者向けの運動指導者・支援者を育成した。
- ◇ 地区コミュニティ協議会を単位とした運動教室の開催に対して、講師を派遣し、講師の謝金に係る一部を助成することにより、地区に根ざした運動教室を展開し、地区における健康づくりの場を確保した。
- ◇ 市内にある総合型地域スポーツクラブ川内スポーツクラブ01、ひわきYOU遊スポーツクラブに対し、事業に係る費用の一部を補助することにより、市民への運動機会の提供、健康づくりの推進などの成果を得た。



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ◎ 主な取り組み

### ● 学校給食センターの施設整備

- ◇ 共同調理場8施設，単独調理場5施設であった13の給食調理場施設を5つの学校給食センターに統合整備した。（平成18年3月）

東郷，上甑，鹿島学校給食センター及び祁答院地域の5つの単独調理場（黒木小，大妻小，上手小，藺牟田小，祁答院中）の廃止

### ● 調理配送部門の民間委託化

- ◇ 川内学校給食センター（平成17年3月）
- ◇ 樋脇，入来，里，下甑学校給食センター（平成19年3月）

### ● 給食費の統一

- ◇ 地域ごとにそれぞれ不均一であった給食費を，本土地域内（川内，樋脇，入来学校給食センター）と甑島地域内（里，下甑学校給食センター）で均一化を図り調整した。（平成18年3月）

- ◇ 月額給食費（平成21年4月から）

川内，樋脇，入来学校給食センター

幼稚園	3,600円	小学校	4,000円	中学校	4,600円
-----	--------	-----	--------	-----	--------

里，下甑学校給食センター

幼稚園	3,100円	小学校	3,600円	中学校	4,300円
-----	--------	-----	--------	-----	--------



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○ 主な取り組み

### ● 集団宿泊学習の受け入れ

- ◇ 集団宿泊学習の受け入れ施設として、市内外の小中学校に広く定着しており、毎年、安定した利用をされている。
- ◇ 受け入れに当たっては、集団生活を通じた規律・協同・友愛・奉仕の精神を育成することを主眼に、各団体を主体とした活動プログラム作りをサポートしている。

### ● 生涯学習の推進

- ◇ 生涯学習においては、子ども会や家庭教育学級、学年・学校PTAの利用の増加が目を見ている。
- ◇ 成人の自主学習グループが育ってきており、特に、陶芸・木工の自主学習グループの活動が活発で、近年の利用者数の増に大いに寄与している。

### ● 主催事業の拡充

- ◇ 所独自の主催事業に関しては、毎年17～8事業、50本前後を企画・運営している。
- ◇ 特に、子ども達に人気の高い「夏のアドベンチャー事業」「冬のアドベンチャー事業」が出色であるが、本年7月の「皆既日食」など、時機事象を見据えた事業も積極的に展開し、利用者の裾野の拡大に貢献している。



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○ 主な取り組み

### ●蔵書の充実整備

- ◇ 市民や児童が求める図書資料の継続的な確保・充実を図り、利用促進に努めた。
- ◇ 一般図書、児童書・絵本等を年間約10,000冊を購入し、利用に供している。

### ●図書館奉仕網の整備及び館内奉仕の充実

- ◇ 図書館システムネットワークの充実・拡大を図り、どの分館でも貸出し、予約、検索が可能になった。（平成19年2月）

### ●移動図書館の利用促進

- ◇ 本土地域の移動図書館車を1台増車し、市内全域を巡回する体制が整った。  
（平成17年）
- ◇ 平成21年度は本土地域、22コース、49箇所、甌地域、8コース、32箇所を巡回している。



# 現状と課題



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○現状と課題

### ●小中学校校舎・屋内運動場の耐震化の状況について

#### 【現 状】

- ◇ 平成18年度に実施した耐震化優先度調査により、昭和56年以前に建築された小中学校の校舎・屋内運動場について、耐震化優先度①～⑤までのランク付けを行った。
- ◇ 平成20年度には、ランク①、②の校舎及び屋内運動場、並びにランク③の屋内運動場の全て（34棟）について耐震2次診断を実施した。
- ◇ 平成21年4月1日現在で耐震化率は51.7%（134/259）であるが、今回診断を実施した施設について必要な補強工事を行えば64.9%（168/259）となる。

#### 【課 題】

- ◇ 今後引き続き、優先度③～⑤の建物についても全て耐震2次診断を実施すると共に、その結果により耐震補強工事を実施することとしている。



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○ 現状と課題

### ● 学校教育（市全域における小中一貫教育の充実）

- ◇ 市全域で実施している「小中一貫教育」は平成21年度にスタートしたばかりであり、全中学校区における研究・実践の推進体制の確立や取組の充実を図るとともに、保護者や地域住民の小中一貫教育に関する理解を深めることなどが課題となっている。

### ● 学校教育（小・中学校の適正規模化等に関する検討と推進）

- ◇ 本市では3学級以下の小学校は現在17校、37%だが、7年後には22校、49%に増加するなど、小・中学校の小規模化はますます加速していく状況にある。  
子供に豊かな人間性や社会性、確かな学力などを身に付けさせるためにはある程度の集団が必要であり、学校規模の面から望ましい教育環境を整えることは喫緊の課題となってきている。  
そこで、教育委員会が策定する基本方針に基づき、学校の適正規模化や適正配置を進めるとともに、特認校制度・留学制度についても廃止を含め見直し<sup>が</sup>課題となっている。



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○現状と課題

### ●青少年の健全育成の推進

- ◇ 社会経済の急速な変化の中で、青少年を取り巻く環境変化の影響から、生活習慣の乱れや規範意識の低下、人間関係の希薄化が危惧されており、心身ともに健全で人間性豊かな青少年を育成するため、子ども会・PTAをはじめ、関係機関・団体との連携を深め、各種青少年育成活動を支援・充実していく必要がある。
- ◇ 情報メディア等の急速な普及により、インターネットや携帯電話等による、いじめや犯罪に巻き込まれる青少年が増加傾向にあり、本市の青少年を守り、安全で安心な地域社会を目指すため、全市民による青少年健全育成運動の強化が求められている。

### ●中央公民館・地域公民館施設の整備充実

- ◇ 中央公民館・地域公民館が設置後、相当の年数を経過していることから、老朽化した箇所の整備を図るとともに、高度情報化の進展等に伴う、多様化した市民の学習ニーズに即応できるよう施設設備の改善・充実が必要である。



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○ 現状と課題

### ● 歴史・伝統文化の保存と継承

◇ 市内各地域に伝承される郷土芸能や慣習行事等の伝承活動について、後継者不足に伴い、活動を休止している団体や、少人数で辛うじて活動を維持している団体等が見受けられるなど、伝承活動にかげりが出始めている。これらの文化伝承や保存ならびに活用、保護について改めて地域で見直し、コミュニティ事業の研究課題として取り上げる必要がある。

### ● 自主的な文化活動の促進

◇ 文化行事への自主的参加を促し、文化祭等発表の場を提供するべく「春の芸能祭」・「薩摩国分寺秋の夕べ」などのイベントを年行事として開催しているが、郷土芸能団体等の参加が年々減少傾向にある。昔から神社への奉納および地区行事での披露という慣習が定着しており、将来的には、保存会同士による持ち回り型の芸能祭も研究する必要がある。

### ● 歴史的・文化的資源のネットワーク化

◇ 市内には貴重な文化財が数多く保存されている。今般、目的地を巡りやすく、理解を深めるようにすることを目的に「文化財マップ」を作成した。今後、地域別や観光地も盛り込んだテーマ別の周遊コースを設け、巡りやすくするなど、具体的検討が課題となっている。

### ● 市民に身近な文化拠点の充実

◇ 川内歴史資料館・川内まごころ文学館は平成16年度から指定管理者制度を導入し運営しているが、入館者数について顕著な変化は見られない。企画展や特別展の実施で計画的に新しい企画を打ち出すなど、継続的取り組みが課題となる。

### ● 文化施設の利用促進

◇ 川内文化ホールは、昭和42年開館から40年を経過し、これまで修理修繕に莫大な経費を投じている。本体建替えを視野に入れた建設検討委員会等の設立が課題となっている。

### ● 文化施設の連携体制の構築

◇ 市では文化施設における収藏品等の有効活用や、各施設の個性や特徴を活かした企画を双方向で実施できるようネットワークの構築が課題である。



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○ 現状と課題

### ● 競技スポーツ人口の拡大

◇ 少子化等で競技スポーツ人口の減少が懸念される中、ジュニア世代の競技スポーツ人口の確保等が課題となっている。

### ● 指導者の育成

◇ 市体育協会等関係団体と連携を図りながら、高度な専門的知識を有する指導者育成を図ることが課題である。

### ● 体育施設の整備

◇ 各地域の施設の老朽化が目立ち、施設の抜本的改修に努め、合理的な管理運営体制を構築することが課題である。

### ● 市体育協会・市スポーツ少年団の自主運営

◇ 市体育協会・地域体育協会及び市スポーツ少年団の活動を継続しながら、安定経営及び自主運営に向けた支援・指導していくことが課題である。

### ● スポーツ教室の提供

◇ フィットネスを中心としたスポーツ教室を開催しているが、参加者の多くが、女性であり、男性への運動の重要性、青壮年期からの運動習慣をいかに定着させるかが課題となっている。（フィットネス：体組織・心肺機能・筋力・筋持久力・柔軟性）

### ● 地区コミュニティを核とした運動機会の提供

◇ 地区コミュニティを単位として、運動教室を開催し、地域に根ざした運動教室の展開を図っているが、一部の地区での開催となっており、全地区で開催できるよう、周知を図ることが課題となっている。

### ● 総合型地域スポーツクラブの自主運営に向けた支援

◇ 現在、市内にある総合型地域スポーツクラブ川内スポーツクラブ01、ひわきYOU遊スポーツクラブが市民への運動機会の提供を核に展開しているが、いかに安定経営、自主運営に向け支援・指導をしていくかが課題である。



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○現状と課題

### ●給食費の未納対策

- ◇ 川内・樋脇・入来の学校給食センターで未納が発生している状況である。
- ◇ 徴収方法が、地域のPTAの集金、PTA役員の集金、口座振替、子供便による集金等さまざまであるため、徴収方法の統一について検討を行う必要がある。
- ◇ 給食費納入については、未納が発生しないよう保護者への負担義務等の文書の定期的な配布やPTAの総会等での周知を図り、より一層の保護者の理解と協力を得る必要がある。
- ◇ 学校やPTA、教育委員会との連携、協力により、徴収率の向上を図る。
- ◇ 給食費の納付困難者の中には、援助制度等を知らない者や、受給者でも制度をよく理解していない者がいるため、制度そのものの主旨やその活用等について、周知を図る必要がある。



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○現状と課題

### ●施設の現状

- ◇ 利用者は、ほぼ、増加傾向で推移している。特に、**平成20年度は開所以来最高の利用者数を記録**した。これは、生涯学習の場として、広く市民に周知され、また利用されていることを如実に物語っている。今後とも、利用者のニーズに応じたプログラムの開発、施設設備の充実に努め、社会教育施設としての役割を果たしていきたい。

### ●施設の課題

- ◇ 開所以来22年を経過し、施設の老朽化が顕著となっている。そのため、毎月の安全点検等により、故障箇所早期発見に努め、施設の補修、利用者の安全確保に留意する。  
ソフト面においては、安全マニュアルの確認と共通理解を図る。また、事業時の実施判断基準の遵守など、利用者の安全確保を念頭に置いた事業の展開に十分配慮する。





# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○ 現状と課題

### ● 情報通信システムとレファレンスの課題

- ◇ 近隣市町住民が、相互に直接利用できる制度作りを推進する必要がある。  
なお、図書検索については、県立図書館を中心としたネットワーク内で、それぞれの館の所蔵図書の検索が相互に可能になっている。  
今後、より一層充実したレファレンスのシステムが求められるところである。

### ● 視聴覚ライブラリーの利用低下

- ◇ 視聴覚ライブラリーの利用は、主に学校教育、社会教育関係者であるが、近年のインターネット普及により、利用低下の傾向にあり、利用拡大の方策が課題となっている。

### ● 図書館の老朽化とスペース的限界

- ◇ 現中央図書館は、築約30年が経過し、建物の老朽化のほか、蔵書の増加により、開架・閉架スペースが手狭になってきており、また、自動車利用の来館者増加に伴う慢性的な駐車場不足などの要因もあいまって、今後、新たな施設の検討など抜本的な打開策が求められている。



# 今後の主な取組について



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○ 今後の主な取組について

### ● 小中学校校舎・屋内運動場の耐震化（安心・安全な学校施設の確保）

◇ 今年度、引き続き耐震化優先度調査でランク付けされた優先度③の校舎について21棟の耐震2次診断を予定しており、残りのランク③10棟、ランク④、⑤が各27棟、合計64棟についても全て耐震2次診断を実施し、その結果により、順次耐震補強工事を実施していく。

### ● ICT化（情報通信技術の導入）、エコ化（太陽光発電等の導入）

◇ 子どもの学力・IT活用能力の向上のため、ICT化を推進するとともに、エコ化により、環境教育教材としての活用を図る。



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○ 今後の主な取組について

### ● 市全域における小中一貫教育の充実

- ◇ 「小中一貫教育研究推進委員会」や保護者・地域住民も対象とする研究発表会等を実施し、全小・中学校における取組や推進体制の充実を図るとともに、保護者や地域住民の小中一貫教育に対する理解を深め、義務教育9年間を通して、学校・家庭・地域が一体となって子供を見守り育てていけるようにする。
- ◇ 「4・3・2制」の中期の教育段階を中心とした児童生徒の交流活動や教員の授業交流の充実、人間関係形成力や表現力等を育成する新教科「コミュニケーション科」の充実、9年間を見通した英語教育の充実を図るため小中一貫教育推進事業を継続するとともに、英語力向上プラン事業と関連させた取組を推進する。

### ● 小・中学校の適正規模化等に関する検討と推進

- ◇ 望ましい学校規模等に関する教育委員会の基本方針を保護者や地域住民等に説明し、理解を得ながら学校の適正規模化に向けた取組を推進する。  
併せて、特認校制度や留学制度の在り方についてもその廃止を含めて見直しを進める。



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○ 今後の主な取組について

### ● 青少年の生活体験・交流体験事業の推進

- ◇ 次代を担う青少年の豊かな心やふるさとを愛する心を育成するため、地域の人々や自然・伝統・文化から学ぶ活動や、自然豊かな地域・場所に青少年を派遣し、自然や命の尊さについて学び、交流・奉仕・労作活動等を通し、人間づくり・仲間づくりについて学ぶための各種事業を展開する。

### ● 学校・家庭・地域の連携強化

- ◇ 家庭・地域の教育力を高め、学校における教育活動を支援するため、一層の学校・家庭・地域の連携強化を図る。
- ◇ 地域の自然や伝統文化や地域で暮らす人々が、子どもの育成のための教育力となる取り組みについて見当します。



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○ 今後の主な取組について

- 郷土芸能保存伝承に係る公演の機会や後継者確保問題については、地区コミュニティ協議会や学校に対し、行事イベント等への積極的な出演交渉や練習会への参画を促していただくなど、各組織機構の中に専門部としての位置付けを明確化するよう取り組む。
- 文化のまちづくり事業についてはできる限り、住民による企画・運営の形態を推奨し、行政（市）は支援という立場に移行していけるよう人材・組織の育成に取り組む。
- 史跡清色城跡は、追加指定と公有化を進めながら発掘調査を行い、整備については伝統的建造物群との関係を重視し、範囲は最小限に留める。
- 入来麓伝統的建造物群について、平成17年度から保存修理事業を実施している。特定物件中、各所に古式を維持する築後110数年を経過する武家屋敷が存在している。幸いにもこの構造物について所有者から寄贈を受けることになり、今後文化庁の補助を受け公開物件として活用したい。また、並行して、国土交通省による歴史的景観に配慮した、道路や石垣の美装を行う「街なみ環境整備事業」を導入し、美しい景観まちづくりを実現させる。
- 天辰寺前古墳は、平成21年度までの調査でその性格を明らかにするとともに、その保存手法について慎重に対処し、公開と活用については各方面の意見や指導など十分研究を行う。
- 下甕島鹿島で発見された恐竜化石について、研究調査団の支援と現地保存の取り組みを具現化し、公開や活用について関係機関と密接な連携を図る。
- 市内の貴重な文化財を市民や来訪者が身近に感じ、巡りやすく、理解を深めるようにすることを目的に「文化財マップ」を作成した。今後、川内歴史資料館を中心に各郷土館等との連携で文化財や文化財関連施設を選定して地域別やテーマ別の周遊コースを設定し巡りやすくするなど、観光関連の機関にも積極的活用を呼び掛け、薩摩川内市の歴史に気軽に触れていただく。



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○ 今後の主な取組について

### ● 競技者・指導者の育成

- ◇ 市体育協会等関係団体と連携を図りながら、プロスポーツ等の誘致，質の高いスポーツ大会の開催及び各種スポーツ教室・研修会等を支援し，また，スポーツ振興のための諸施策に取り組んでいく。

### ● 体育施設等の整備充実

- ◇ 指定管理者と連携を図りながら，各地域の社会体育施設の活用促進に努め，合理的な管理運営体制を構築する。

### ● 市体育協会等の自主運営

- ◇ 市体育協会・地域体育協会及び市スポーツ少年団の自主運営に向けた調査・研修に取り組んでいく。

### ● 運動習慣定着のための基盤整備

- ◇ 高齢化が進む中，各地区で各地域の運動指導者・支援者が運動教室を開催し，心身ともに健康で豊かな生活を過ごすと共に，地区の活性化を図るため「シニアスポーツリーダー派遣事業」について重点的に取り組む。

### ● 総合型地域スポーツクラブを核としたスポーツ・運動機会の広域展開

- ◇ 市内にある総合型地域スポーツクラブ川内スポーツクラブ01，ひわきYOU遊スポーツクラブを核とした全市的な健康づくりをするため広域展開できるよう両クラブの充実・支援について重点的に取り組む。



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○ 今後の主な取組について

### ● 学校給食センター施設整備事業

- ◇ 安心・安全な学校給食の提供の一環として、老朽化した給食配送車の更新及び牛乳保冷庫、食器、食缶、厨房備品等を整備し、学校給食の適正な管理運営を図る。

### ● 給食費未納対策事業

- ◇ 各学校長及びPTA会長に対し、滞納状況リストを送付し、学校側からの督促及び電話催告を行う、また給食センターから滞納者に対し督促書を送付及び電話催告を実施する。
- ◇ 各学校が給食費未納対策委員会を開催し、納入促進策について協議し徴収に努める。
- ◇ 給食センター及び学校側と連携を図り、戸別訪問による徴収の実施。
- ◇ 滞納整理強化期間を設け、学校側との連携の基に取り組む。
  - ・滞納繰越分滞納整理強化期間→夏季・冬季休業期間中及び3月
  - ・現年分滞納整理強化期間→夏季・冬季休業期間中及び5月



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○ 今後の主な取組について

### ● 学校教育を補完する事業の推進

- ◇ 集団宿泊学習や、自然教室等への指導支援の強化
- ◇ 部・クラブ活動、学級・学年単位等への施設開放の推進

### ● 主催事業の推進

- ◇ 夢と感動を体感する「星」をテーマにした事業の充実
- ◇ 家庭教育を支援するファミリー自然体験事業の充実
- ◇ 自然の素材を生かした「ものづくり」事業の推進

### ● 積極的な生涯学習の推進

- ◇ 木工・陶芸等の事業の充実と自主学習グループの育成
- ◇ PTA会員や少年団体育成者等の研修活動への支援活動の充実



# 合併後5年間のまちづくり【教育部】

## ○ 今後の主な取組について

### ● 読書普及活動の促進

◇ 平成17年3月に策定した「薩摩川内市子ども読書活動推進計画」の成果を受けつぎながら、次期計画の策定等、引き続き活動推進に努める。

- ①家庭，地域における読書活動の推進
- ②図書館における子ども読書活動推進と資料整備
- ③民間団体（読書グループ等）の活動の支援

### ● 図書館のデジタル化推進

- ①電子化に対応できる職員の養成・確保
- ②情報通信環境の整備（オンライン化推進など）
- ③各種電子サービスの提供
- ④学校図書館等とのネットワーク整備

### ● 新たな図書館施設設置の検討



# 代表的取り組み事例



# 【参考】小中一貫教育の推進

## ○ 小中一貫教育の推進

### ● 義務教育の区切りを「6・3制」から「4・3・2制」に見直し

教員の相互乗り入れ授業や児童生徒の交流活動等を実施することにより、小学校から中学校へのスムーズな接続を実現する指導を展開。

### ● 小学校での英語教育の実施

中学校英語教諭や英語の堪能な地域人材の支援を受けた英語活動の授業を実施。

### ● 新設教科「コミュニケーション科」の創設

地域の教育的風土や伝統を生かし、各中学校区が特色ある教育活動を展開する中で、子どもの人間関係構築力や効果的な表現力を育成。



部活動体験入部（川内中央中）



小中合同一日遠足（水引小・中）



# 【参考】青少年フレッシュ体験事業

## ○ 青少年フレッシュ体験事業（平成17年度～）

### 【内容】

北海道二セコ町と長野県信州新町及び本市による文学館姉妹盟約を機縁とし、本市の児童生徒を同地に派遣し、有島武郎・有島生馬・里見弴の3兄弟が残した文学や芸術、足跡を学ぶほか、派遣地の雄大な自然・文化と、そこに暮らす同世代の児童生徒との交流活動を通して、集団の中で幅広い視野を養うほか、心身ともにたくましく、心豊かな青少年を育成することを目的に実施。



【自然体験(スキー活動の様子)】



【交流体験】

(派遣地の児童生徒との交流の様子)】



# 【参考】地域伝統や文化の継承・活用

## ◎ 地域伝統や文化の継承・活用

400年以上の歴史を持ち、市内外から3,500人以上の参加者で綱を引き合う「川内大綱引」、江戸時代から続く国重要無形民俗文化財（H20年3月13日指定）「東郷文弥節人形浄瑠璃」及びユネスコ無形文化財の候補にあがっている「トシドン」を活かした市域内外との交流機会の創出。



川内大綱引



東郷文弥人形浄瑠璃



トシドン

## ◎ 文化のまちづくり

優れた芸術・文化に触れる機会の提供と、芸術・文化団体等への活動発表の場の提供による芸術文化の振興。



国際青少年音楽祭



秋の夕べ  
(国分寺跡史跡公園)



春の芸能祭



# 【参考】 スポーツ交流の振興・スポーツ人口の拡大・競技力向上

## ○ 市民運動会・市民交流スポーツ大会の様子



## ○ プロスポーツ合宿の様子





# 【参考】健康スポーツの推進

## ◎ シニアスポーツリーダー養成講習会の様子



## ◎ 川内川河ロマソン・ウォーキング大会の様子

